

悪化する米国景気

ポイント① 企業景況感の悪化はまだ小幅

4月初めに発表された米国の3月の経済指標は、新型コロナウイルスの感染拡大に対する全米各地における人々の行動の制限措置による景気の悪化を示すものとなりました。ただし、指標のもととなる調査の実施時期が3月中旬頃までと見られることから、4月以降、一段と悪化する可能性が高いようです。

3月の米ISM（サプライマネジメント協会）景況感指数は、製造業では景気の拡大/縮小の分岐点となる50を割りました。一方、非製造業では50を割れなかったものの、前月からの上落幅は製造業を上回りました。ISM景況感指数は3月後半以降の経済情勢を織り込んでいない模様で、4月には一段と下落するものと見られます。

ポイント② 急激な悪化に向かう雇用

3月の米雇用統計によれば、失業率は4.4%と2月の3.5%から上昇し、非農業部門雇用者数は前月比-70.1万人と2009年3月以来の大幅な減少となりました。しかし、調査時期が3月中旬であり、足元の雇用情勢を捉えきれていないようです。

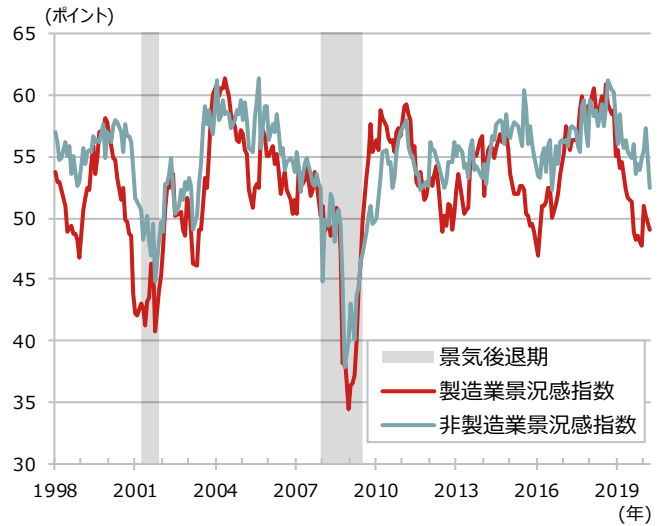
雇用の先行指標である週次の新規失業保険申請件数は、3月21日までと28日までの週で急増しています。4月には失業率が10%を超えるとの見方もあり、雇用情勢は急激に悪化しているようです。

ポイント③ インフラ投資等の景気対策に注目

こうした事態に対して、米国政府やFRB（米連邦準備制度理事会）は既に財政・金融両面からの大幅な景気刺激策を打ち出しています。さらに、政府、議会は巨額のインフラ投資を検討し始めており、感染拡大に歯止めがかかった後の景気のV字型回復を目指す方向にあるようです。

図1：米ISM景況感指数

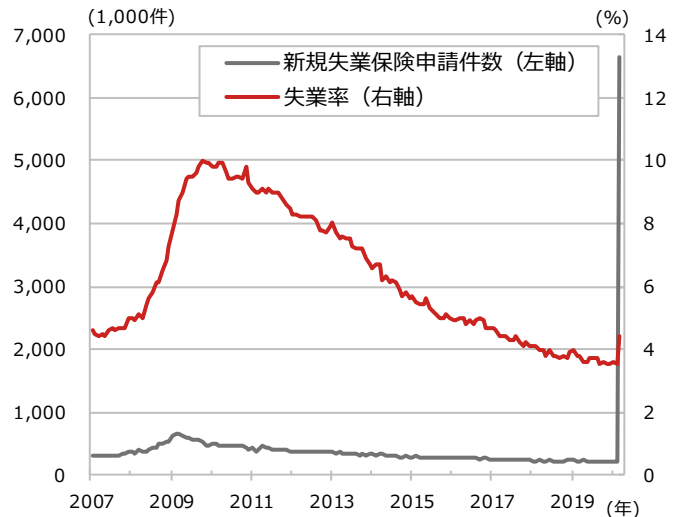
期間：1998年1月～2020年3月、月次



(出所) Bloombergより野村アセットマネジメント作成

図2：米国の新規失業保険申請件数と失業率

期間：2007年1月～2020年3月、月次



(注) 新規失業保険申請件数は毎月最終週の値。
(出所) Bloombergより野村アセットマネジメント作成

重要
イベント

4月15日 米小売売上高、米鉱工業生産指数（3月）
4月20日 シカゴ連銀全米活動指数（3月）